

「自由を味わいきれない人々」

～本当の自由を味わうための福音～

「しかし、今ではもう本当の神を知っているのに、いや、もっと正確な言い方をすれば、本当の神に知られているのに、どうしてあの無力で無価値とも言うべき昔の幼稚な教えに逆戻りして、もう一度そんなものに夢中になるのか。」
ガラテヤ人への手紙4章9節 [現代訳]

「自由というものは、本来はそれが与えられることに対する孤独や責任を受け止めるということが求められるわけであり、その覚悟を持った上で自由を希求して得た者によって構成される社会こそが望ましい社会の形態といえるわけである。」

これは、ドイツの社会学者エーリッヒ・フロムの「自由からの逃走」の要約文に書かれていた文章です。私たちは本当の自由を生き抜くためには、自らに孤独と責任を背負う覚悟が必要となってきます。そのことの困難さから、人々はナチスドイツの台頭を許してしまった過去がしばらく前のドイツで起った出来事でした。この日本もかつては同様な状況があった訳です。

人々はいつの時代も不安と背中合わせに生きている部分があります。その不安感を逆手にとった詐欺や、新興宗教の勧誘にまんまと引っかかってしまう弱さを持っています。そんな中でも、私たちはキリストにあって、本当の自由を与えられたことを受け止めて、明るく元気でのびのびと生かされて行きたいと願っています。

私たちは周りの環境によって支配され、影響されてしまう傾向がありますが、主にあって、信仰に立って、逆に周りに良い影響を与えていく存在でありたいと願います。そのためには、時には闘いを経験し、苦しみを経験することもあります。それでも、私たちは感謝すること、喜ぶこと、人を愛すること、人を祝福することに励みたいと願います。

牧師が語る説教 (preach) のことを、別の英語の言葉で表現すると、「exhortation」と表現しますが、これには「奨励、励ますこと」という意味があります。牧師の仕事は第一に、人々を励ますことであると自覚しています。どんなことがあっても、その人を励まし、建て上げることでありと理解しています。それは、私の使命であり、そのために生かされていると自覚しています。「自由」は、神様から与えられた使命に生きることによって初めて味わうことができる世界なのではないかとも感じます。

昨日はユース・クラブ・アップが行われました。千曲市から軽井沢町までの若い方や若い方々を応援しようとするクリスチャンの方々が集われました。それぞれの教会の若者たちは一人、二人のような状況ですが、励まし、支える方々がおられて、一人一人が育まれていくのだなあと感じました。若者だけではありません。すべての方々は神様の恵みを味わいたいと願っておられるはずです。信じて祈り続けましょう！